



だっこ通信

第25号

2022. 8月発行



だ いじょうぶ・つ ながる・こ そだて



あるある話「発達^{でこぼこ}の凸凹いろいろ」

【例えば…】

なかなか言葉が出ない

視線が合わない

音や光に敏感

よく痾癩を起こす

こだわりが強い

新しいことへの不安が強い

落ち着きがない



なんか様子が気になるんだけど、このままでいいのかな。ちょっと不安だね。



発達には「はやい・おそい」「つよい・よわい」などの個人差があり、誰しも多少なりとも発達の凸凹を持っています。ただその程度が大きい場合、日常生活で困ったり生きづらさを感じたりすることがあります。視力が弱ければメガネをかけるように、足が不自由なら杖を使うように、弱い部分をカバーする方法や工夫があればいいのですが、発達の凸凹は外見からでは分かりにくく一人一人違うので、その特性が周りに理解されにくいという悩み（本人の辛さ）があります。



強み、得意な部分

伸ばしていきたい部分

優れている部分ではあるが、それが強すぎて（敏感過ぎて）辛くなったり得意ゆえに浮いてしまったりすることもある。（例）味や臭いに敏感。ルーティンに忠実。



苦手な部分

困難さを感じる部分

多少なりとも誰にでもある。へこんでいる部分は無理せずゆっくり練習していく。周りの人に追いつこうと頑張り過ぎないようにする。

★本日のお題

まずは凸凹を知ることから始めよう

子どもは日々成長し、変化しています。大人はつい「できること・できないこと」に目が行きがちですが、本人なりには頑張っているのです。周りから誤解されたり怒られたりすると、自己肯定感も下がってしまいます。どんな場面で困っているのか、どうすれば落ち着くかなど、身近な大人がその子のもつ凸凹（特性）を知ること、手立てが少しずつ見えてきます。

発行者：さくら市生涯学習課（担当 鈴木）

過去のだっこ通信はこちらから→

